

市民と吹田市民病院をつなぐ広報誌

地方独立行政法人
市立吹田市民病院
SUITA MUNICIPAL HOSPITAL

ともに

13

2022年
秋号



特 集

皆さんの健康を実現する

脳神経外科のチカラ!

市民とともに心ある医療を

地方独立行政法人 市立吹田市民病院は「市民とともに心ある医療を」の基本理念に基づき、急性期医療や高度医療、救急医療を中心に、吹田市の中核病院として、質の高い安全な医療の提供に努めています。それらの取り組みを、広報誌「ともに」を通じて市民の皆さんにお伝えいたします。

INTERVIEW

脳・脊髄の健康を守る砦として

患者さんに満足いただける 総合的な医療を実現します!

市民の皆さん気が軽く受診できる市立吹田市民病院には、
脳だけではなく脊髄も扱える脳神経外科があります。
今回は部長の梅垣先生にお話を聞きました。



うめがき まさお
市立吹田市民病院 脳神経外科部長 梅垣 昌士
日本脳神経外科学会 専門医 指導医
日本脊髄外科学会 指導医

な言葉ではないかもしれません、他の脳神経外科のスタッフも実践してくれており、私は部長として安心して脳神経外科を運営できています。

患者さんが来院され、診断、手術、リハビリを経て、満足して退院していただく総合的な医療の実現には、質の高いチーム医療が求められます。

脳神経外科には、意識障害や歩行障害などの症状を抱える患者さんがおられます。病棟看護師は親身なケアを実践し、手術室の看護師は、慣れない手術の場合でも事前にしっかりと勉強して対応しています。手術とは人為的なことを患者さんに加える行為ですから、術後に症状が悪化するようなことがあれば誰も幸せになれません。手術前には成功するための方法を練り、スタッフの支えのもと手術をする。そういうたさまざまな準備と連携がうまくいった証明が患者さんの満足であり、それを実現できる熱意あるスタッフが集まる脳神経外科はすばらしいチームだと感じています。

これからも市立吹田市民病院の脳神経外科として、患者さんの症状に合わせた最適な治療を第一に続けてまいります。市民の皆さんにとって敷居の低い脳神経外科を目指していきますので、頭痛、めまい、視野・視力の障害、顔面や手足のしびれ、動かしにくさ、電気が走るような痛み、歩行障害、認知障害などの症状があれば、かかりつけ医に相談され、受診してください。

高度な医療で患者さんの負担を小さく

1983年の開設以来、市立吹田市民病院の脳神経外科は、軽症から手術の必要な重篤な疾患まで幅広く対応してきました。特に近年は脊椎脊髄疾患や脳脊髄腫瘍を中心に、高度な医療を提供しています。

私たちが得意としているのは脳腫瘍手術、脊髄腫瘍手術、そして低侵襲の脊椎・脊髄手術の三つです。

特に低侵襲の脊椎・脊髄手術は「患者さんの体への負担をできるだけ小さくする」をコンセプトとした手術です。脊椎手術の場合、傷を小さくし、正常な組織を壊さずに手術ができるれば、術後の背骨のぐらつきといった不安定性が生じる可能性を下げられます。また、傷が小さければ回復も早く、早期の社会復帰も望めます。これらの手術を安全かつ高精度に実現できるのは、経験やトレーニングを積んだ医師が在籍していることと、最新の手術支援機器である外視鏡システム(ORBEYE)やニューロナビゲーションや神経モニタリングを導入しているためです。

フットワークは軽く、準備は怠らず

私は「フットワークは軽く、準備は怠らず」をモットーとして、来院された患者さんへの対応、他の診療科との密な連携を心掛けています。あまり重厚

外来診療をスムーズに行うために、令和4年4月から脳神経外科は紹介制となっています。
初診・予約なしの再診で受診される際は、必ず医療機関からの紹介状(診療情報提供書)をご用意ください。

ともに 13

2022年 秋号

■ 広報誌「ともに」にご意見がある方は市立吹田市民病院までご連絡ください。

地方独立行政法人 市立吹田市民病院 広報委員会〒564-8567 吹田市岸部新町5番7号

TEL 06-6387-3311 FAX 06-6380-5825

ホームページ <https://www.suitamhp.osaka.jp> メールアドレス shomu@mhp.suita.osaka.jp

患者さんの思いを受け止め、手術中の安全を守ります!

脳神経外科手術の開頭手術や脊髄手術は、ミリ単位の作業が求められる難易度の高い手術で、長時間をおこします。私たち手術室看護師は、繊細な器械を取り扱い、医師へ確実に手渡すとともに重要な役割を担っています。麻酔中で話ができない患者さんの代弁者として思いを受け止め、使用器械や当日の流れなど医師とのコミュニケーションを大切にして、手術中の安全を守ります。

ふじい ももこ
中央手術部 看護師 藤居 桃子



手術
スタッフ

患者さんの“その人らしさ”を考えた看護を心掛けています!

脳の病気が原因で、何らかの障がいを抱えて生活している患者さんに対し、その人の持つ力を最大限に引き出し、生かすことが脳神経外科病棟の役割です。のために「その人らしさとは何か」を常に考え、丁寧な看護を提供できるように努めています。今後も日々のコミュニケーションを大切にし、多職種を交えたカンファレンスを積極的に実施するなど、看護の質向上につなげていきたいと思います。

たにぐち なおみ
4階西病棟 看護師長 谷口 直美



病棟
看護師



和やかな雰囲気の中で、妥協しない治療を提供します!

病気、検査、手術と考えると不安や怖いイメージを持たれる方も多いと思います。市立吹田市民病院は地域に根差した病院で、どの職種においても経験豊富なスタッフが在籍しています。脳神経外科では和やかな雰囲気ですが、診療には妥協なく根拠に基づく治療を受けることができる安心して受診することができます。また、他の診療科との垣根もなく、臨機応変な対応ができます。病気を治すことはもちろん、病気と前向きに向かえる環境が整っています。

やまとざき ひろき
脳神経外科 医師 山崎 弘輝
[令和4年10月1日付で
吹田市内の病院へ異動]



医師

皆さんの健康を実現する

脳神経外科のチカラ!

個々の力が発揮されるチーム医療で地域の医療に貢献します!

チーム医療は、患者さんの症状や生活背景、ご家族の状況も踏まえた治療方針を検討し、目標を明確にした上で個々の職種のパフォーマンスを上げることが大切。そのため、すべての職種とその仕事に敬意と感謝を持って治療するように心掛けています。これからも地域の皆さんに「市立吹田市民病院なら安心」と言っていただける病院、子どもから大人まで診療できる医師を目指して、地域の医療に貢献してまいります!

よこた ちさと
脳神経外科 医長 横田 千里



医師

脳神経外科とは脳や脊髄、末梢神経の手術を専門とする診療科です。当院では、安全・高精度なシステムと高い専門性を生かしたチーム医療で、手術や放射線治療、化学療法などの後治療やリハビリなど総合的で質の高いチーム医療を実現しています。



専門性を発揮する チーム医療

安全・高精度なシステム



外視鏡システム(ORBEYE)

脳や脊髄の手術において細かな血管や神経を観察するための最新のシステムです。接眼レンズをのぞき込むのではなく、大画面のモニターに映し出された鮮明な術野を見て手術を行います。

ニューロナビゲーション

手術前のCT検査やMRI検査の画像データを組み込み、脳の手術中に摘出すべき腫瘍や手術器具の位置をカーナビながらリアルタイムで表示させます。正常な脳組織の損傷も最小限に抑えることが可能です。

最新の手術支援機器で脳脊髄手術を実施しています!

ニューロナビゲーションと神経モニタリングは大学病院などの大規模施設で使用されている機器で、当院でも外視鏡システムとともに安全な脳腫瘍・脊髄腫瘍の手術の実現に必要不可欠な設備だと考えています。

うめがき まさお
脳神経外科部長 梅垣 昌士

